

ものづくり
記

三菱重工・名航⑤

「やっぱりダメだったか……」。建設機械を手掛ける北菱(石川県小松市)社長の谷口直樹は肩を落とした。航空機分野への参入を模索する中で見つけた名古屋商工会議所による「航空機エンジン部品加工トライアル」。三菱重工工業から与えられる部品加工のテーマで優秀な成績をおさめれば、中小企業でも航空機エンジン部品に参入する道が開かれる可能性があるという、一種の競技会だ。谷口は2016年に参加したがあえなく落選した。

ものづくりの世界でもとりわけ参入障壁が高いとされる航空機。祖父の代から建機を手掛ける北菱を率いることになった谷口には期するものがあつた。「僕が引退する頃にも日本で生き残るためには、ウチじゃなきゃできない仕事をやるしかない」と考えていました。足元の建機の仕事は順調だったが、いつまでも続く保証はない。高校生だったバブル崩壊時に建機の売上高の6割を占める取引先が倒産して家業が傾きかけた記憶も、危機感につながっている。手当たり次第に航

部品メーカーは死なず



空機分野参入につながる情報を探して見つけたのが、このトライアルだった。落選で谷口の野望はついにたばかりだった。聞けば三えたかに見えた。だが、審査員としてトライアルに参席していた上田晋作の目に、この社長はちょっと「名航(名古屋航空宇宙システム製作所)」から19た。受注すれば長期間の仕事保証される航空機に参入したいと考える中小企業経営者は山ほど見てきた。だが、その多くは覚悟が足りない。谷口に、その覚悟を見たという。

上田は新人時代に、後に三菱航空機の営業部長としてMRJ(三菱リージョナルジェット)に改称)を世界に可ではない。最低でも2年間「修行」が必要だという。新たな設備も不可欠。修行だから収入はゼロ。2年後に仕事がある保証などない。北菱では名の知られた建機サプライヤーとはいえ、社員が約120人の北菱にとつては厳しい注文だ。それでも谷口の答えは「やり遂げます」だった。上田は名古屋市にあるエ

培った技術 海外に活路

■エヌブリッジの上田社長と北菱の谷口社長は二人三脚で航空機エンジン部品への参入を果たした(18年2月、シンガポール国際航空ショー)

■谷口社長は航空機部品参入のため、2年間の「修行」をやり遂げた(石川県小松市)



味がないという。ふたりが選んだのが航空機エンジンの中でも特に高温になる燃焼器を覆うケーシングだ。材料は極めて加工が難しいニッケル合金。250℃ほどの合金を丹念に削り出していく、最終的には80ほどの複雑な形状の部品に仕上げていく。この難解な作業に挑むため、谷口は5軸加工機という最新の設備を導入した。特殊な鋼材で削っていくが、燃焼器ケースに特化した刃物は存在しない。温度や治具の設定など、少しでも条件を間違えば「キーン」という大音量の独特な高音とともに工具が壊れてしまふ。谷口は何度も工具メーカーから試作品を取り



中小企業連合を築き上げた住友精密OBの五十嵐氏

のときに吉報が届いた。三菱重工経由で受注したの、目指した燃焼器ケースとは違った。それでも米ボーイングの戦略機「787」のエンジンに使われる部品を運べる。自動車エンジンより先に米当局の認証を受けて商業運航を始めたホンダジェットでは受注に成功したが、本命のMRJは飛ばないまま。だが、引き下がるわけにはいかない。五十嵐は自ら築いたJAN(一度区切りを付け、その中から有志連合といえる「JANアライアンス」)をこの10月に立ち上げた。「もう日本には頼らない」。そう言う五十嵐は旧知の欧州サプライヤーと部品供給に向けて交渉に入った。中小企業は死なず。半世紀ぶりとる国産ジェット機の夢が、ついに今も、航空機という高い壁に挑もうとする中小企業がなくなることはない。この国のものづくりを支えるのは大企業ではなく、そんな名もなき担い手たちだ。

■中小企業集めタッグ

「やっぱり三菱はすごいと思いますよ。こう語るのが住友精密工業OBで、航空機部品参入を目指す異色の中小企業連合、ジャパ

のときに吉報が届いた。三菱重工経由で受注したの、目指した燃焼器ケースとは違った。それでも米ボーイングの戦略機「787」のエンジンに使われる部品を運べる。自動車エンジンより先に米当局の認証を受けて商業運航を始めたホンダジェットでは受注に成功したが、本命のMRJは飛ばないまま。だが、引き下がるわけにはいかない。五十嵐は自ら築いたJAN(一度区切りを付け、その中から有志連合といえる「JANアライアンス」)をこの10月に立ち上げた。「もう日本には頼らない」。そう言う五十嵐は旧知の欧州サプライヤーと部品供給に向けて交渉に入った。中小企業は死なず。半世紀ぶりとる国産ジェット機の夢が、ついに今も、航空機という高い壁に挑もうとする中小企業がなくなることはない。この国のものづくりを支えるのは大企業ではなく、そんな名もなき担い手たちだ。

五十嵐が住友精密を飛び出して作り上げた中小企業連合。自らの足で歩いた1000社超の中から、30社ほどを選び抜いた。三菱重工より先に米当局の認証を受けて商業運航を始めたホンダジェットでは受注に成功したが、本命のMRJは飛ばないまま。だが、引き下がるわけにはいかない。五十嵐は自ら築いたJAN(一度区切りを付け、その中から有志連合といえる「JANアライアンス」)をこの10月に立ち上げた。「もう日本には頼らない」。そう言う五十嵐は旧知の欧州サプライヤーと部品供給に向けて交渉に入った。中小企業は死なず。半世紀ぶりとる国産ジェット機の夢が、ついに今も、航空機という高い壁に挑もうとする中小企業がなくなることはない。この国のものづくりを支えるのは大企業ではなく、そんな名もなき担い手たちだ。

——この項おわり
(敬称略)
杉本貴司と石川雄輝が担当しました。